

平成 28 年度ひょうご食生活実態調査の再分析から見えてきた
兵庫県民の食意識、食習慣、食行動の特徴（経過報告）

平成 28 年度ひょうご食生活実態調査を再分析することにより、県民の食習慣や食行動の特徴を把握し、地域特性や住民ニーズに即した効果的な栄養・食生活改善施策の推進にいかしていく。

再分析作業は平成 30 年 8 月より、行政栄養士経験 10 年未満の県職員と管理栄養士養成校教員が連携して取り組んでおり、令和元年 8 月末時点の分析結果の一部を報告する。

【テーマごとの分析の方向性と結果（暫定）】

テーマ	分析の方向性(主なもの)	分析結果 (R 元 8 月末)
野菜	<p>【ターゲット】働き盛り世代</p> <p>①健康に関する意識及び知識の有無別野菜摂取量の平均値</p> <p>②野菜摂取と食塩摂取量、野菜の料理皿数と野菜摂取量の相関</p> <p>③BMI 区分別の野菜摂取量</p>	<p>【野菜摂取量が多い人の特徴】</p> <p>①朝食摂取習慣がある。朝食に米飯を食べる</p> <p>②1 日に食べる野菜の皿数が多い。</p> <p>③野菜の摂取意識や実践力が高い。</p> <p>④自分の適正体重を知っている</p> <p>※野菜摂取量と食塩摂取量、中食・外食摂取頻度、BMI との関連なし</p>
減塩	<p>【ターゲット】成人</p> <p>①調査個票に遡り、食べ方と調理法、食塩摂取量の関連</p> <p>②食塩摂取量と他の栄養素摂取状況、アンケート結果の関連</p>	<p>【食塩摂取量が多い人の特徴】</p> <p>①BMI $\leq 25\text{kg/m}^2$ 以上の 50～60 歳代女性</p> <p>②男性:食肉加工品、魚介缶詰 女性:チーズ、魚介練り製品、魚介干物</p> <p>③カレーライス、ハヤシライス、フライドポテト</p>
朝食	<p>【ターゲット】20～40 歳代</p> <p>①朝食喫食頻度別に、生活習慣病予防の意識・実践、身体状況</p> <p>②朝食摂取頻度別に、調理法、栄養素摂取状況</p>	<p>【朝食欠食者の特徴】</p> <p>①男女ともに食事時間が不規則</p> <p>②男性:食事に対する問題意識が低く、運動習慣がない</p> <p>③女性:間食や就寝 2 時間以内の食事が多い</p>
低栄養	<p>【ターゲット】65 歳以上の高齢者</p> <p>①低栄養 (BMI $\leq 20\text{kg/m}^2$ 以下) につながる食生活の特徴(孤食、活動不足、食事バランス悪化、体重への無関心)を仮定し分析</p>	<p>【低栄養傾向者 (BMI $\leq 20\text{kg/m}^2$ 以下) の特徴】</p> <p>①BMI 低い、高年齢、女性(居住形態関連なし)</p> <p>②主食・主菜・副菜を組み合わせる頻度が少ない</p> <p>【非低栄養傾向者 (BMI $> 20\text{kg/m}^2$ 以下) の特徴】</p> <p>①自分の適正体重を知っている</p> <p>②自分の食事への満足感が高い</p>

※連携養成校 兵庫県立大学、神戸学院大学、神戸女子大学、兵庫大学、園田学園女子大学、神戸松蔭女子学院大学

⇒再分析結果については、兵庫県公衆衛生協会中央研究会(11 月 16 日)での発表、食の安全・安心と食育審議会、食育推進部会での報告、食の健康協力店メールマガジンなど媒体へ活用する。
また、令和 2 年 3 月末には 2 年間の分析結果と考察について冊子にまとめる。